



## 5. 全期間を通じた研究交流目標

ユネスコによる世界遺産の制度化により、アフリカ諸国の文化遺産に関する関心はいちじるしく高まっている。しかしながら、世界遺産に登録されている総件数890（2007年現在）に対し、サハラ砂漠以南のアフリカ諸国の登録件数79、うち文化遺産42と、その数はきわめてかぎられている。その理由は、ひとつには、アフリカ諸国の考古学調査が進んでいないために、文化遺産の価値が十分に認識されていないことである。それに加えて、アフリカの多くの国では、文化財の保護や社会的活用のための制度設計ができていないという課題もある。

本学術基盤形成事業においては、西アフリカ・マリ共和国の文化省文化財保護局およびマリ大学と協力しながら、①文化財の発掘・調査に当たる人材の育成と、②文化財の保護および展示等を通じてのその社会的活用につながる人材を育成する。マリのように深い歴史がありながら、研究学術資金の制約がある国家においては、この2つの領域は同一人物が兼務していることが多く、この両面における力量の啓発は大きな意義がある。さらに、③文化財の保護とその社会的活用のために地域社会とどのように協力するかのノウハウを共同研究を通じて概念化し、博物館などでの展示・公開の作業を通じて、文化財のもつ価値を地域住民と国民に向けて広報する作業の実施により、文化財の公共的活用という研究課題に応じていく。また、④本研究期間中に、わが国の若手研究者を現地で研究させるなどして、彼らの育成にも尽力する予定である。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成22年度は、上記中とくに①と④を推進した。①に関しては、マリ東部のガオで日本側コーディネーターがマリ側コーディネーター等と10年来実施している考古学発掘調査に、マリ大学の大学院生4名を参加させ2週間の研修をおこなった。また、それに日本の大学院生を参加させることで、わが国初のアフリカ考古学者の育成につとめた。②に関しては、マリ側受け入れ機関との協力のもとに、全国の博物館の学芸員を集めて研修を実施する予定であったが、マリ側の準備不足により実現できなかった。代わりに、文化財保護局の専門官8名を対象に、マリにおける考古学の歴史や土器の分析方法等について2日間のセミナーを実施した。③の課題は、最終年度までかけて実現する予定である。その他、平成23年3月にホームページを完成させ、本研究交流活動とアフリカ考古学の広報につとめた。

## 7. 平成23年度研究交流目標

本年度は、本研究の日本側コーディネーターである竹沢がマリに行き、マリ側コーディネーターの所属する文化財保護局等と、今年度以降の研究交流の実施計画の策定や今年度実施予定の研修の内容等について詳細を詰める。また、今年度は、研究協力を永続化するための研究協力協定の締結に向けて話し合う。

「学術的」には、本年度もマリ側の考古学者と共同研究を組織して、マリ東部のガオで

未開発の遺跡の発掘を行う。それと平行して、マリの考古学的研究の発展に寄与するべくセミナーと実習を組織し、文化財の保護のためのノウハウの開発と、考古学的知識の普及・開拓に貢献する。この点に関しては、それに先立ってわが国で研究会を実施して、文化財の社会的活用等についてのノウハウの確立につとめる。これらの研究交流には、マリ大学および日本の大学に属する大学院生や若手研究者を参加させることで、研究能力と実務的能力の涵養につとめる。

## **8. 平成23年度研究交流計画概要**

### **8-1 共同研究**

本年度は、これまでの共同研究をさらに推進し、マリ東部のガオでの考古学発掘調査を、マリ側コーディネーターをはじめ、マリ大学の2名の教授が参加することで継続して実施する。さらに、それにわが国の大学院生数名、およびマリ人大学院生5名を参加させることで、研修をおさめさせる。西アフリカ各国の大学では、考古学の講座はあるが、予算の制約により実習が行われないため、机上の学問になる傾向がある。その改善のためには、このような研修の実施が必要である。また、わが国ではアフリカ考古学は全くの未開拓の分野であり、それにわが国の大学院生を参加させることには大きな意義がある。

博物館展示のための手法を開拓し、共同研究地でもあるガオでの博物館展示に協力する。この博物館は現在建設中であるが、マリに張博物館展示の専門的技量をもった研究者・学芸員が乏しいので、それに積極的に協力することで、よりよい博物館展示を実現すると同時に、現地の研究者・学芸員の技量の向上に努める。また、それに向けてわが国でも研究会を組織する。

### **8-2 セミナー**

竹沢と川口がマリへ行き、マリ各地の文化財保護局の支部員および各地の博物館学芸員、あわせて約8名を集めて、セミナーを実施する。テーマは、考古資料を中心にした文化財の保護方法と、博物館での展示手法の改善である。昨年度は、マリ側の準備不足により実施できなかったが、今年度は予算をつけているとの確認をとっているため、現地で実施する予定である。

近年、マリをはじめとする西アフリカ各国では、ヨーロッパのNPO等の介入により地域博物館の建設が盛んである。しかし、その保存のためのノウハウや博物館の展示に関しては、それを教育する機関が現地にないこともあり、改善の余地が大いにある。そこで、本セミナーの実施により、その拡充をめざす。

### **8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）**

竹沢がマリに行ったときに、マリと日本のあいだの研究協力を長期にわたって実現するために、マリ文化省文化財保護局ないしマリ大学とのあいだの研究協力の協定書の締結に

向けて協議する。

## 9. 平成23年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	マリ 〈人/人日〉	〈人/人日〉	〈人/人日〉	〈人/人日〉	合計
日本 〈人/人日〉		4 / 61				4 / 61
マリ 〈人/人日〉						
〈人/人日〉						
〈人/人日〉						
〈人/人日〉						
合計 〈人/人日〉		4 / 61				4 / 61

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は( )をのぞいた人・日数としてください。)

### 9-2 国内での交流計画

4 / 8 〈人/人日〉
--------------

## 10. 平成23年度研究交流計画状況

### 10-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成22年度	研究終了年度	平成24年度
研究課題名	(和文) アフリカにおける文化遺産の保護と社会的活用のための研究交流 (英文) Protection and Public Use of the Cultural Heritage in Africa				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 竹沢尚一郎 国立民族学博物館 教授 (英文) Takezawa Shoichiro, National Museum of Ethnology, Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	Sanogo Klessigue, Direction of the Cultural Heritage, Director				
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流				
	派遣先	日本	マリ		計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本 <人/人日>		1/40		1/40
	<人/人日>				
	<人/人日>				
	合計 <人/人日>		1/40		1/40
	② 国内での交流 4/8				
23年度の研究 交流活動計画	平成22年度に実施した共同研究を通じて、従来発見されなかった時代の建造物等を発掘することに成功した。これにより、本研究は西アフリカ史解明に一層大きな貢献をなすと思われるので、その成果を踏まえ、平成24年1月にマリ大学の学生を5名選抜して、マリ東部のガオ市での発掘実習に参加させる。この研究には、日本側コーディネーターの竹沢をはじめ、マリ側コーディネーターのサノゴ、マリ大学のケイタ、ダンベレ両教授も参加し、学生の指導に当たる。本研究は、王宮と思われる西暦10世紀の大規模建造物を中心に、数世紀にわたる建築年代の特定に向かう予定である。				
期待される研究 活動成果	マリのみならず、西アフリカで「中世」の王宮が発掘されたことはなく、本研究の成果は国際的にも高く評価されるはずである。また、それに際し、マリ大学の大学院生5名を参加させることで、かれらの考古学的な知識と発掘能力の向上に寄与する。本研究に関しては、アメリカ合				

	衆国のイエール大学出版局から出版のプロポーザルが出ており、その実現に向けて積極的に進めていく。	
日本側参加者数		
	4 名	(13-1 日本側参加者リストを参照)
( マリ ) 国 (地域) 側参加者数		
	3 名	(13-2 (マリ) 国 (地域) 側参加者リストを参照)
( ) 国 (地域) 側参加者数		
	名	(13-3 ( ) 国 (地域) 側参加者リストを参照)

10-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 文化財保護と博物館展示のためのセミナー
	(英文) JSPS AA Science Platform Program Seminar on the Cultural Heritage and its Exhibition in the Museum
開催時期	平成24年 1月 10日 ~ 平成24年 1月 12日 (3日間)
開催地(国名、都市名、 会場名)	(和文) バマコ、マリ
	(英文) Bamako, Mali
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 竹沢尚一郎 国立民族学博物館 教授
	(英文) Takezawa Shoichiro, National Museum of Ethnology, Professor,
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	Sanogo Klessigue, Direction of the Cultural Heritage, Director

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 ( マリ )	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	2 / 16
	B.	
	C.	
マリ 〈人/人日〉	A.	
	B.	
	C.	3 / 9
〈人/人日〉	A.	
	B.	
	C.	
合計 〈人/人日〉	A.	2 / 16
	B.	
	C.	3 / 9

A. セミナー経費から負担

B. 共同研究・研究者交流から負担

C. 本事業経費から負担しない (参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しない。)

セミナー開催の目的	<p>マリ各地では文化財保護に対する関心が高まり、また外国のNGO団体等の支援により、地域博物館が相次いで建設されている。しかし、文化財の保護や、文化財を博物館でどう展示するかについてのノウハウの蓄積はないので、セミナーを開催することによりその能力を向上させる。</p>	
期待される成果	<p>マリ文化省では、マリ各地の文化財保護と考古学文化財の発掘等のために、全国に7つの支部をもち、日々積極的に活動している。また、全国にある8つの州では、そのほぼすべての地域に地域博物館が建設され、地域の文化資源の展示を行っている。</p> <p>しかし、マリ国内には博物館学を学習できる施設は存在しないし、文化財保護についても同様である。そのため、マリ国内には4つの世界遺産が存在するにもかかわらず、その保護と開発の活動はいまだ未発達である。本セミナーは、マリ各地の文化財保護局員と博物館学芸員を集めて、日本側研究者が3日間の研修を実施するものであり、それにより学芸員や文化財保護員の関心と能力を大幅にアップできるものと期待される。</p>	
セミナーの運営組織	<p>マリ文化省文化財保護局が実際の運営にあたり、それに日本側参加者である竹沢と川口が講師のかたちで参加することで、セミナーを実施する。</p>	
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	<p>内容： 総額 1,070,000 円</p> <p>海外旅費 870,000 円 (日本人研究者2名)</p> <p>謝金 100,000 円 (会場の手配、セミナー運営のための事務連絡等)</p> <p>印刷資料代 100,000 円</p>
	(マリ) 国 (地域) 側	<p>内容 総額： 250,000 円</p> <p>会場費 10,000 円</p> <p>旅費滞在費 240,000 円</p>
	( ) 国 (地域) 側	<p>内容 金額</p>

10-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

① 相手国との交流

派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	マリ 〈人／人日〉	計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉		1 / 5	1 / 5
〈人／人日〉			
〈人／人日〉			
合計 〈人／人日〉		1 / 5	1 / 5

② 国内での交流 0 / 0

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時 期	用務・目的等
国立民族学博 物館・教授・竹 沢尚一郎	マリ・バマコ・文化省 文化財保護局、	2011.11 .20-201 1.11.25	研究協力体制の構築に向 けた話し合い

### 1 1. 平成23年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	200,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	2,305,000	
	謝金	1,150,000	発掘にあたり、助手を2名現地に連れて行き、発掘と作図に当たらせるための費用。
	備品・消耗品購入費	145,000	
	その他経費	965,000	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	235,000	
	計	5,000,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		500,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		5,500,000	

### 1 2. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	0	0
第2四半期	200,000	4/8人日
第3四半期	2,450,000	2/25人日
第4四半期	2,350,000	2/36人日
合計	5,000,000	8/69人日